



おおうらの子

校訓 **かしこく やさしく たくましい 大浦の子** 創立145周年（明治11年創立）

お世話になります

校長 上原 一 宏

4月に転入してまいりました上原です。始業式の次の日には、3・4年生が田植えをするということで、いろいろな方にお世話になりました。ありがとうございます。大浦小学校は小規模校ですので、保護者や地域の皆様のお力添えが必要になってくるかと思えます。これからもどうかよろしく願います。

無私・利他の心

第1回目に何を載せようか迷いましたが、私が最も尊敬する稲盛和夫氏のことについて書きます。稲盛和夫氏は、鹿児島県の出身で、京セラ（KYOCERA）や第二電電（KDDI）を立ち上げ、経営破綻したJALを短期間で再生させたことでも有名です。また、その経営手腕を若手にも伝えるため盛和塾を創設し、若き経営者の指針としても活躍されていました。さらに、出身県の鹿児島県や京都府などに多額の寄附をしたり、子供たちが勉強に専念できるように、奨学金を出したりするなど、その功績は多岐に渡ります。稲盛氏の経営の哲学（フィロソフィ）は、タイトルの無私・利他の心だそうです。無私とは私欲がないこと、利他とは利益は他人が、というものです。私利私欲に走る人が多い中で、素晴らしい考え方です。この考え方の根底には、西郷隆盛の南洲翁遺訓があります。次は、西郷の南洲翁遺訓の一部分を解説したものです。

敬天愛人克己とは

人が行くべき道は、天から与えられた道理を守る、すなわち天を敬うということだ。また、（人は天より生まれたものであるから）周囲の人を愛さなければならない。そのためには身を修め、常に意志の力で自分の衝動や欲望を制御する、つまり己に克たなければならない。己に克つための極意は「論語」にあるとおり、「意なし、必なし、固なし、我なし」、すなわち、私欲を貪る心をもたないこと、自分を必ず通そうとはしないこと、こだわりの心をもたないこと、独りよがりにならないことの四つだ。しかし、手柄も立て名も知られるようになると、知らぬ間に己を甘やかす心が生まれ、恐れたり慎んだりという心が緩み、驕り高ぶる気持ちが次第に大きくなる。だから、人の見ていないところでも、戒めの心、慎みの心を持つことが必要なのだ。

稲盛氏は、西郷の生き方に感銘を受け、自身の経営哲学に応用しているところがたくさんあります。第二電電を発足させる際、決断に至るまでの半年間、常に「動機善なりや、私心なかりしか」と自問自答していたそうです。そして「国民のために通信料金を安くする。」という、まさに無私、利他の心で立ち上げました。当時は、電電公社が民営化されNTTと看板を変えましたが、その力は強大で、誰も新規参入をしようとしなかったのです。独占状態で、欧米よりも高い通信料金を憂い、何もノウハウのない通信事業に参入したのです。

教育もまさに稲盛氏の考え方と同じです。学校は、子供たちが将来を生き抜くための力をつけるために、無私・利他の心で接していきます。よろしく願います。

5年度行事 スタート



今年もすぐに田植えが始まりました。始業式の翌日の4月7日。例年通り、大浦図書館前の田んぼに3,4年生が植えました。JAの方々の指導の下、保護者の方々のご協力をいただきながら、いつもより少し短い時間で植えることができました。8月には稲刈り。しばらくして販売。12月にはもちつき予定です。



5人の新1年生

10日は入学式。3月には11人が卒業しましたが、4月になり、また賑やかになってきました。

